

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 特定非営利活動法人ヤマガタヤポニカ

1 事業の趣旨・目的

- ① 日本語テキスト「子育て日本語表現」を使い、外国人ママは子育てに必要な言葉を学ぶ。
- ② 日本人ママも、教室に参加することで子育てに大切な言葉を学ぶ。
- ③ 日本人ママと外国人ママと一緒に参加することで、地域の繋がりが「ママ友」ができる。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
5月23日	日本語アカデミ ー	西上紀江子 桑山幸子 加藤大鶴 内海由美子 岡部幸子 横沢由実 大竹美知子 古澤弘美	運営委員の紹介 事業の概要説明 これまでの経緯説明 今後の予定	山形、高畠、最上の3教室 で同時進行するに当たって の教室立ち上げ、各教室 の概要、外部への協力依 頼、広報などの各人の役 割を確認
10月27日	日本語アカデミ ー	西上紀江子 桑山幸子 加藤大鶴 内海由美子 岡部幸子 横沢由実 大竹美知子 古澤弘美	事業報告 感想および意見交換 今後に向けて	山形、高畠、最上の各責任 者より事業実施報告 事業の困難点、達成点な どの発表 今後に向けての意見交換

3 日本語教室の開催について

- ① 講座名 外国人ママパパも日本人ママパパもいっしょに楽しむ「わいわい子育て」
- ② 開催場所
山形市(東北文教大学図書室)、高畠町(高畠町総合交流プラザ)、最上地区(新庄市地域子

育て支援センターわらすこ広場)

③ 学習目標

子育てに大切な日本語の学習

日本人パパママと外国人パパママとの交流

④ 使用した教材・リソース

『子育て日本語表現』(2008)ヤマガタヤポニカ

⑤ 受講者の募集方法

全体:山形県国際交流協会に3地区のちらしを各20部置く。

山形新聞

周辺地域の日本語教室に協力依頼のお願いとちらしを郵送

山形市:南山形幼稚園、山形南小学校低学年、東北文教大学幼稚園の各家庭へのちらし配布

高畠町:高畠小学校低学年、高畠子ども園の各家庭へのちらし配布

高畠総合交流プラザ窓口にちらしを置く。

総合交流プラザ国際交流推進員から当該者へのちらし郵送

最上地区:新庄市市報

最上広域保健所や健康福祉課を通じて当該者へ声かけ

新庄市内幼稚園、保育園の各家庭へのちらし配布

わらすこ広場(子育て支援センター)窓口でちらしを置く。

⑥ 受講者の総数 29 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

(出身・国籍別内訳 中国(台湾含む)9人、韓国4人、ルーマニア1人、フランス2人、
ペルー 1人、フィリピン1人、日本11人)

開催時間数(回数) 40 時間 (全 15 回)

⑦ 日本語教室の具体的内容

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語(人)	教授者・補助者人数	内容
①	7月9日 9:00~12:00 (高畠町1回目)	3時間	5人	中国・中国語(3人) 日本・日本語(2人)	教授者4人 補助者3人	『子育て日本語表現』第1課、おもちゃ作り
②	7月23日 9:00~12:00 (高畠町2回目)	3時間	7人	中国・中国語(4人) 日本・日本語(3人)	教授者4人 補助者2人	『子育て日本語表現』第7課、ワークショップ「学校文化」
③	7月23日 9:00~12:00 (山形1回目)	3時間	7人	中国・中国語(2人) ペルー・スペイン語(1人) 韓国・韓国語(1人)	教授者4人 補助者3人	日本語学習 『子育て日本語表現』第1課、折り紙作り

				日本・日本語(3人)		
④	7月30日 9:00~12:00 (山形2回目)	3時間	6人	中国・中国語(3人) 韓国・韓国語(1人) 日本・日本語(2人)	教授者4人 補助者3人	日本語学習 『子育て日本語表現』第4課、ワークショップ「学校文化」
⑤	7月30日 10:00~12:00 (最上1回目)	2時間	5人	中国・中国語(3人) 日本・日本語(2人)	教授者3人 補助者0人	日本語学習 『子育て日本語表現』第1課、おもちゃ作り
⑥	8月20日 9:00~12:00 (高島3回目)	3時間	7人	中国・中国語(3人) フランス・フランス語(1人) 韓国・韓国語(1人) 日本・日本語(2人)	教授者3人 補助者2人	日本語学習 『子育て日本語表現』第8課、ワークショップ「外国人ママ」
⑦	8月20日 9:00~12:00 (山形3回目)	3時間	7人	中国・中国語(1人) 台湾・中国語(1人) フィリピン・タガログ語(1人) 日本・日本語(4人)	教授者4人 補助者3人	日本語学習 『子育て日本語表現』第11課、ワークショップ「子育て」
⑧	8月21日 10:00~12:00 (最上2回目)	2時間	6人	中国・中国語(2人) フランス・フランス語(1人) ルーマニア(1人) 日本・日本語(2人)	教授者3人 補助者0人	日本語学習 『子育て日本語表現』第7課、ワークショップ「学校文化」
⑨	8月27日 9:00~12:00 (山形4回目)	3時間	7人	中国・中国語(2人) 韓国・韓国語(1人) 日本・日本語(4人)	教授者4人 補助者4人	日本語学習 『子育て日本語表現』第16課、うちわ作り
⑩	9月3日 9:00~12:00 (山形5回目)	3時間	7人	中国・中国語(2人) 韓国・韓国語(1人) 日本・日本語(4人)	教授者5人 補助者1人	日本語学習 『子育て日本語表現』第18課、読み聞かせ
⑪	9月3日 10:00~12:00 (最上3回目)	2時間	2人	中国・中国語(2人)	教授者4人 補助者2人	日本語学習 『子育て日本語表現』第8課、読み聞かせ
⑫	9月10日 9:00~12:00	3時間	3人	中国・中国語(1人) 日本・日本語(2人)	教授者4人 補助者1人	日本語学習 『子育て日本語表

	(高島 4 回目)					現』第 4 課、読み聞かせ
⑬	9 月 10 日 10:00~12:00 (最上 4 回目)	2 時間	1 人	中国・中国語(1 人)	教授者 3 人 補助者 0 人	日本語学習 『子育て日本語表現』第 4 課、座談会
⑭	9 月 17 日 9:00~12:00 (高島 5 回目)	3 時間	5 人	中国・中国語(2 人) フランス・フランス語 (1 人) 日本・日本語(2 人)	教授者 4 人 補助者 1 人	日本語学習 『子育て日本語表現』第 12 課、読み聞かせ
⑮	10 月 1 日 10:00~12:00 (最上 5 回目)	2 時間	3 人	中国・中国語(2 人) 日本・日本語(1 人)	教授者 4 人 補助者 1 人	日本語学習 『子育て日本語表現』第 14 課、軽体操

⑧ 特徴的な授業風景(2~3 回分)

わいわい子育て山形教室 第 1 回 報告書
2011 年 7 月 23 日(土)9:00~12:00
東北文教大学 図書室
担当者 横沢・加藤 西上、古澤、加藤、佐多 交流会講師 河合
参加者 外国人ママ 4 名、日本人ママ 3 名、子ども 10 名
<p>報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆるゆると集まり、10 分遅れで開始。日本人ママ二人(斉藤、高橋)は南山形幼稚園のチラシにヒット、もう一人は AIRY に行き行ってチラシを見たそう(長谷川)。長谷川さんはご主人がカナダ人で子どもが中学生。幼少のころは海外で子育てしていたので、共感できると参加。外国人ママは文教大で勉強しているナンシーさん(ペルー)と池野さん(韓国)、それに吉川さんと渡辺敏さん。 ・事前連絡と違い子どもが多く、途中からも家族が連れて来たりと、結局小学生を含め 10 名となった。託児必要なのは 7 名。バイトを頼んでいなかったの、見学者などで対応した。ということで、見学に来て下さった方々を子どものために総動員する形となりました。十分に見学できなくて申し訳ない！！ ・日本人と外国人がペアになる形で実施。初めに目的と 18 の場面を説明した。5 回でどの課を取り扱うか、みんなで相談した。今日は 1 課を実施。あとは 4, 11, 16, 18 とした。 →内海さん、次回どこがいいですか？決めてください！ ・ナンシーさんは日本語力が初級後半くらいで、ちょっと負担な様子だった。池野さんは問題なし。吉川さんと渡辺さんは配慮不要。 ・日本語学習では、日本人ママには「日本語クイズ」ということを説明して、特に文法用語を使わずに、ペアで活用形を作ったり、文を作ったりした。文法的に混乱したら私が説明やフォローすると伝えたが、特に問題なく進められた。ナンシー長谷川ペアは、ちょっと難航したが、長谷川さんが根気強く取り組んで、何とか形になっていた。 ・10 分休憩のあと、折り紙講座を)開始。子どももみんな連れてきて、一緒にした。

・途中、折り紙に飽きた子供もいたが、みんな楽しそうだった。託児室も隣接するという配慮があり、とても動きが楽だった。子どもも新感線を眺めたり、折り紙で遊んだり、お母さんのところに来たりとゆるく動けたので初回としては良かったと思う。

・申し込み状況が芳しくなく心配しましたが、とりあえず何とかになりました。講師含め 24 名で、にぎやかになりました。

・折り紙は1時間でもよかったかも。途中から子どもがぐずったりして、ママの子供への負担があったようです。ストーリーがある折り紙は見ていて面白かったです。子どもたちが引き込まれているのがわかりました。

・個人的に小さい子供たちを見たり抱いたりして、昔を思い出しました。心配なこともありましたが、楽しかったです。

わいわい子育て高島教室 第1回 報告書 (大竹)
2011年7月9日(土)9:00~12:00
高島町総合交流プラザ 第1,2研修室、和室1,2(託児)
担当者 大竹・桑山・鈴木玲子(高島町国際交流推進員)・古澤
見学者 青山(9:00~12:00)、西上・渡辺(10:00~12:00)
参加者 外国人ママ 3名(1名早退)、日本人ママ(2名)、子ども 5名
<p>反省</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 集まりが悪かった。参加希望の二人は当日午前までさくらんぼの仕事。早退した一人も昨日から仕事を始めたなど悪条件が重なった。次回は今回お休みの人も含め皆さん参加してくれることになっている。9時開始ができなかったのは、やはり子連れなので開始時間が早すぎたためと思われる。 ・ アイスブレイキングで懇親が深まった。自然とペアが出来上がった。 ・ 今回参加の外国人ママはお一人はまだ初級前半の印象だったが、ほかの2名はコミュニケーションが取れる日本語力はあったと思う。だが、鈴木さんからときどき中国語で通訳してもらっていたから難しい内容は理解できないかもしれない。ワークショップや講演は通訳が必要と思われる。今のところ申込者は全員中国の方なので、鈴木さんが中国語通訳をしてくれるから、それなりに対応できると思われるが、これからほかの国からの参加希望者が出れば、通訳を頼む必要がある。講師の方にも本当に簡単な日本語で、できるだけ具体的なものでお話をさせていただくようお願いしていく。 ・ 日本語の授業では、目標会話を劇仕立てにした。学習者の日本語レベルがわからなかったので、劇を見ればなんとなくわかるというようにしたためである。文法項目はできれば1つと思ったが、今回は目標文の関係上2つになった。学習目標は会話がなめらかに言えること。最後に日本人が子ども役、外国人が母親役でペアで発表した。 ・ 交流会は託児していた方にも子どもを連れてきてもらい、子どもといっしょに楽しんだ。二宮先生は保育園年長者の担任をしており、おもちゃコンサルタントの資格を持つ。牛乳紙パックで作るびっくり箱、こま、また折り紙3枚で作るこまなど、作って遊べるおもちゃを準備してくれて、時間的にもぴったりだった。先生が「なごなご行きましょう」とおっしゃっていたが、ほんとに和やかにできた。

今回は子どもが作れるものだったこともあり、子どもも楽しんで参加していた。

- ・ 託児は高畠町ファミリー・サポート・センター「NPO 法人すふうん」にお願いした。子どもの月齢で担当者の派遣数が決まるので、6人(予定)の子どもに4人の方をお願いした。交流会の時点で赤ちゃん一人を除いて託児はなくなったが、最後の時間までお願いした。(前後30分を含め4時間の託児)子どもの年齢は9ヶ月1名、2歳1名、3歳1名、5歳2名。すふうんさんの話でも子どもにとって長時間はきついと感想をもらった。
- ・ 最後に参加したママさん対象にアンケートをとった。(3枚回収)

わいわい子育て最上教室 第5回 報告書

2011年10月1日(土)10:00~12:00

新庄市地域子育て支援センター わらすこ広場内(こらっせ新庄 4F)

担当者 古澤・青山・西上 日本語講師 古澤 交流会 須藤真由美さん
参加協力 小松香主査(最上総合支庁)

協力 新庄市地域子育て支援センタースタッフ

参加者:外国人ママ 2名(李敏・小屋唯…中国)日
本人ママ 1名 トミタよしえさん+小学生の息子さん
(新庄市在住)

託児 2名(1歳・5歳)
*「託児ネットきらきら」スタッフ 2名

報告

【参加者の集合状況】鮭川村の李さん、小屋さんが3回目の参加。「外国人ママ」と私が勝手に思い込んでいたトミタさんは、実は日本人!「(生まれて)初めて日本語が上手ですねといわれました!」「いろいろな外国人の方とお友達になりたいくて参加しました。もっと早くに知って参加したかった」小学生の息子さんも時々お母さんの隣に来て参加。

【軽体操】呼吸法を取り入れたヨガ流の静かな動きでしたが、身体の内から暖まり、最初長座になった時足先が持てなかった人も、体操が終わる頃には持てるようになりました。アロマオイルを使ってマッサージしたのも効果的かつ好評でした。足の裏のツボを書き込んだ健康タオルを頂いたので、これからはこれを見ながら自分で足の裏マッサージや膝裏を伸ばす運動をして、将来おむつのお世話にならなくてもいいように腎系を鍛えようと、参加者各々が心に刻みました。

【授業】身体を動かしてリラックスしてからの勉強は、お茶も美味しく、いつもより集中力が高まりました。子どもがけがをしたときどういう言葉をかけるか、敏さんに問いかけたところ、中国流に何も声をかけなかったところ、おじいちゃんが「泣くな、大丈夫だ。薬塗って絆創膏貼ってやっからな」といったので、自分もそれをまねた。「中国流」を尋ねたところ、二人とも両親が共働きだったので、鍵っ子。けがをしても誰も構ってくれる人がいなかったの、泣かなかった。(けがをして「泣く」という行為は、周りに人がいて初めて起こる行動なのですね)。黙って、自分で薬を塗ったり絆創膏を貼ったりしたとか。

【感想】・日本語に対する新たな発見があった。外国の人と話せて良かった。もっと早くから参加したかった。(日本人ママ)

* 何があったら、もっと早く情報を得られたと思うか尋ねたところ、「わらすこ広場にはしょっちゅう来て掲示にも注意しているのに気づかなかった」というので、会場に大きくポスターを貼るべきだったと反省。

・今回の講座に参加しなかったら、子どもに対する適切な話しかけ方を、永遠に知らないまま終わった

だろう。(これまで、ですます調で子どもに話しかけていた)これからも企画してほしい。

4 事業に対する評価について

① 当初の学習目標の達成状況

山形教室:参加者は上級者が多く、場面に即したより適切な子育ての表現を学んだ。また、日ごろ口に出来ない苦労話などを互いに披露しあい、共感する場面が多く見られた。

日本語のレベルが初中級話者はマンツーマンで日本語教師が対応した。

交流会はおおむね好評だったが、語彙のコントロールなど参加者への配慮が足りない場面もあった。

毎回感想を書いてもらった。

高島教室:参加者は初中級レベルが中心で、一斉に学習した後は個別に日本人ママ、日本語教師とペアになり、会話を楽しんだ。最後に練習した会話を発表した。

交流会は日本人ママが中心になり外国人ママをリードする場面が多かった。

アンケート実施

最上教室:参加者は教室の学習を経験していない方が中心で、一斉に練習した後は個別に日本語教師が対応した。最後に練習した会話を発表した。

参加者の外国人ママには日本人と話したいという強い意識が見られた。

全体評価:各教室は 5 回なので、目に見える教育効果は見られなかった。ただ、外国人が子育てのような身近なことで日本人と会話する機会が少なく、上級者は上級者なりに会話をすることを楽しみ、また初中級者は直接日本語教師に学習を受ける機会を持つことが出来、達成感があったと思われる。

② 学習者の習得状況

山形教室:参加者の多くは系統的に日本語を学習した教室経験者が多く、日本語の学習というより、日本の子育て文化について各自思うところを日本人と意見交換したいという思いが強かった。

高島教室:初級の学習経験がある方が中心で、テキストを使った進め方に慣れていない人もいた。子育ての言葉は主にテレビから得ているという人が多かった。

最上教室:初級教室も受講しないで、自然習得に近い形で日本語を習得していた。自学で日本語を習得しており、テキストを使つての学習は新鮮であったと思われる。

③ 日本語教室設置運営の効果、成果

日本語の能力の向上には系統的な日本語教育、特に初級レベルでの日本語教育の経験の有無が、その後の日本語習得に大いに関係するという思いを新たにした。

また上級者になっても異文化としての日本語、日本文化に適応するには、日本人とのコミュニケーションネットワークを構築していくことが極めて大切であることも感想に多く書かれて

いた。

④ 地域の関係者との連携による効果, 成果 等

3 教室を開催するに当たり、どこに協力を依頼するかが大きな課題だった。外国人が散在する地域で、今回の教室に該当する参加者を集めるには？と様々な方面に連絡を取った。その過程において、地域の関係者との連携を深めていくことが出来た。

山形教室は東北文教大学が後援となり、日本語教育に関係する先生方が中心になって募集や教室運営に協力をしてくれた。高畠町は町の後援を得て総合交流プラザの国際交流推進員が全面的な会場運営を担ってくれた。最上教室は最上広域保健福祉環境部の母子保健担当の方々、新庄市役所生涯学習課などから助言協力を頂き、後援もしていただいた。

⑤ 改善点, 今後の課題について

a. 現状

各教室 5 回の事業ではイベント的な色合いが強く、学習者各人の日本語能力の明確な向上を見ることは出来なかった。だが、地域社会での生活及び生活の中での日本語学習の基盤である日本人とのネットワークを築き上げる一助になったのは間違いない。教室終了後個々に連絡先を交換し合う情景が毎回のように見られ、教室以外でも一緒に行動をともしたという話も聞いた。子どもを抱えるママ同士として日本人ママ、外国人ママ間の交流を深め、外国人ママの日本での生活の質を上げるという目的は十分に果たすことが出来た。

b. 今後の課題

外国人散在地域においては外国人が少数派であるため、彼らのための支援の輪を広げることには困難が伴う。日本語教室に来て日本語学習を受けられる人は家族の理解があり、経済的な保障もあり、自由な時間もあるという条件を満たした人に限られ、少ない外国人学習者にあってますます数が少なくなる。そのような地域にあってボランティアで日本語教室を継続的に運営していくのは難しい。

外国人学習者を集めて日本語学習支援を、という発想ではなく、日常の中で外国人と関わった人が気軽に外国人の日本語学習の一助を担うことができるようにしていくことが今後の課題ではないか、と考える。つまり従来のような外国人に日本語を「教える」ボランティア日本語教室を設けることより、外国人に気軽に日本語をサポートできる日本語支援学習サポーターを数多く養成していくことのほうが、散在地域における外国人支援の大きな力になるのではないかと考えている。そのためには様々な方面からの情報を得ることが肝要であり、今回の事業は一つのステップとなった。

c. 今後の活動予定, 展望

今回の事業における当会の大きな収穫の一つとして、共催をした山形国際ボランティアセンターや、関係機関との連携がある。当会は日本語教育のみに特化した NPO 法人なので、今回の事業のような地域の子育て事業や保健行政など疎い面が多く、この面での人的交流はなかった。だが、本県のような外国人散在地域においては多方面から外国人日本語支援につながる情報を把握しておくことが活動にとっては極めて重要であり、この人的なネットワークを築くことができたのは大きな成果であった。